

2019年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年1月15日

上場会社名	株式会社鉄人化計画	上場取引所	東
コード番号	2404	URL	http://www.tetsujin.ne.jp
代表者	(役職名) 代表取締役社長	(氏名)	岡崎 太輔
問合せ先責任者	(役職名) 経営管理本部長	(氏名)	秋庭 克彦
四半期報告書提出予定日	2019年1月15日	配当支払開始予定日	—
四半期決算補足説明資料作成の有無	: 無		
四半期決算説明会開催の有無	: 無		

(百万円未満切捨て)

1. 2019年8月期第1四半期の連結業績(2018年9月1日~2018年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年8月期第1四半期	1,616	△1.0	△76	—	△82	—	△66	—
2018年8月期第1四半期	1,632	△5.9	△201	—	△207	—	△213	—

(注) 包括利益 2019年8月期第1四半期 △67百万円 (—%) 2018年8月期第1四半期 △212百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年8月期第1四半期	△8.53	—
2018年8月期第1四半期	△34.40	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年8月期第1四半期	5,314	309	5.8
2018年8月期	5,542	376	6.8

(参考) 自己資本 2019年8月期第1四半期 309百万円 2018年8月期 376百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2019年8月期	—	—	—	—	—
2019年8月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年8月期の連結業績予想(2018年9月1日~2019年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,036	△4.3	200	69.6	160	—	136	—	17.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年8月期1Q	8,232,200株	2018年8月期	8,232,200株
② 期末自己株式数	2019年8月期1Q	476,600株	2018年8月期	476,600株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2019年8月期1Q	7,755,600株	2018年8月期1Q	6,210,600株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 4
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 8
(継続企業の前提に関する注記)	P. 8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	P. 8
(追加情報)	P. 8
(セグメント情報等)	P. 9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、第4次安倍改造内閣が発足、世界同時株安、相次ぐ自然災害の発生など、先行きの見通しが不透明の中、引き続き企業収益は回復基調にあり、消費や設備投資など内需も底堅く推移いたしました。一方、カラオケ業界におきましては、カラオケ需要は底堅く存在するものの、小規模店は淘汰、大手チェーンによる寡占化の傾向が鮮明となり、厳しい競争環境が続いております。

このような状況の中、当グループは当第1四半期連結累計期間において、主力事業であるカラオケ事業再成長への基盤再生のため、経営資源の有効活用および経営の効率化を図る目的でグアム子会社の解散及び清算を決定し、さらに、取締役及び従業員の企業価値増大への貢献意欲や士気を一層高め優秀な人材の定着率向上を図るとともに、株主様を重視した経営を一層推進することを目的として、取締役及び従業員に対してストック・オプションとして新株予約権を発行することを決定いたしました。

また、前事業年度はカラオケ事業への回帰を掲げて経営に注力をしてまいりましたが、当事業年度は更なるカラオケ事業の強化と成長戦略実行のための基盤整備を進めてまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高1,616百万円（前年同四半期比1.0%減）、経常損失82百万円（前年同四半期経常損失207百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失66百万円（前年同四半期親会社株主に帰属する四半期純損失213百万円）となりました。セグメントの業績は次のとおりです。

(カラオケルーム運営事業)

当第1四半期連結累計期間におけるカラオケルーム運営事業の売上高は1,557百万円（前年同四半期比0.1%増）、セグメント利益は58百万円（前年同四半期セグメント損失55百万円）となりました。

競合各社の都心部繁華街立地への集中出店により競争が激化しておりますが、経営改善活動を的確に実行し同事業の業績は着実に回復を遂げました。利益構造の転換として、前事業年度における不採算店舗の積極的な退店（10店舗閉鎖）、前年度より継続して実施している店舗の人材強化及び店舗リニューアルなど営業力の向上を図った結果、比較可能な既存店※の売上高の前年同四半期比は107.3%となりました。

※ 比較可能な既存店とは、営業開始後12ヶ月を経過して営業を営んでいる店舗で前年対比が可能なものをいいます。

(CP事業)

当第1四半期連結累計期間におけるCP事業の売上高は37百万円（前年同四半期比15.1%減）、セグメント利益は28百万円（前年同四半期比2.7%減）となりました。「カラオケの鉄人モバイル」サイトを中心に運営を行っておりますが、フィーチャーフォンからスマートフォンへの乗換えが進み減収・減益となっております。

(その他)

当第1四半期連結累計期間におけるその他の売上高は20百万円（前年同四半期比35.6%減）、セグメント損失は4百万円（前年同四半期セグメント損失0百万円）となりました。不動産賃貸業は計画通りの業績で進捗いたしました。当社100%連結子会社であるTETSUJIN USA Inc. が米国グアム準州タモン地区の「Guam Reef & Olive Spa Resort」内で運営するエンターテインメントレストラン1店舗は2018年10月に営業閉鎖をしております。

(2) 財政状態に関する説明

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態に関する説明については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比較して228百万円減少し、5,314百万円となりました。流動資産は1,931百万円となり154百万円減少いたしました。主な要因は、現金及び預金が116百万円減少及びその他が40百万円減少したこと等によるものであります。固定資産は3,382百万円となり73百万円減少いたしました。主な要因は、建物及び構築物をはじめとした有形固定資産が14百万円増加、無形固定資産が10百万円減少及び投資その他の資産が77百万円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末に比較して161百万円減少し、5,004百万円となりました。流動負債は1,281百万円となり60百万円減少いたしました。主な要因は、短期借入金が100百万円増加、未払費用が74百万円減少及び未払法人税等が28百万円減少したこと等によるものであります。固定負債は3,722百万円となり100百万円減少いたしました。主な要因は、長期借入金が100百万円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末に比較して67百万円減少し、309百万円となりました。主な要因は、利益剰余金が66百万円減少したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2018年10月15日に公表いたしました通期の連結業績予想から変更はありません。当社グループの業績は、その事業規模からカラオケルーム運営事業に大きく依存しております。当事業は、忘年会等が多く行われる12月を含む第2四半期連結会計期間と、歓送迎会等が多く行われる3月、4月を含む第3四半期連結会計期間に売上が偏重する傾向があるため、各四半期連結会計期間の業績が必ずしも通期の業績に連動するとは限りません。実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,608,447	1,492,126
受取手形及び売掛金	116,828	121,345
商品及び製品	2,128	1,094
原材料及び貯蔵品	46,624	45,279
その他	315,177	274,431
貸倒引当金	△3,084	△3,086
流動資産合計	2,086,121	1,931,191
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,153,921	1,178,699
工具、器具及び備品（純額）	79,644	89,306
その他（純額）	444,636	425,149
有形固定資産合計	1,678,202	1,693,156
無形固定資産		
その他	56,997	46,191
無形固定資産合計	56,997	46,191
投資その他の資産		
差入保証金	1,658,252	1,582,726
その他	65,718	63,453
貸倒引当金	△2,720	△2,715
投資その他の資産合計	1,721,250	1,643,465
固定資産合計	3,456,450	3,382,813
資産合計	5,542,572	5,314,004

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	127,746	119,144
短期借入金	—	100,000
1年内返済予定の長期借入金	400,000	400,000
未払費用	497,662	423,041
未払法人税等	41,729	13,365
資産除去債務	8,900	2,500
賞与引当金	32,115	17,201
ポイント引当金	19,609	19,618
その他	214,739	186,782
流動負債合計	1,342,502	1,281,653
固定負債		
長期借入金	3,500,000	3,400,000
資産除去債務	201,083	210,609
その他	122,148	112,297
固定負債合計	3,823,231	3,722,907
負債合計	5,165,734	5,004,561
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,021,609	1,021,609
資本剰余金	1,014,767	1,014,767
利益剰余金	△1,494,006	△1,560,124
自己株式	△176,550	△176,550
株主資本合計	365,820	299,702
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	11,017	9,740
その他の包括利益累計額合計	11,017	9,740
純資産合計	376,837	309,443
負債純資産合計	5,542,572	5,314,004

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2017年9月1日 至2017年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2018年9月1日 至2018年11月30日)
売上高	1,632,740	1,616,014
売上原価	1,552,763	1,421,086
売上総利益	79,977	194,927
販売費及び一般管理費	281,099	271,328
営業損失(△)	△201,122	△76,401
営業外収益		
受取利息	131	2
協賛金収入	2,264	1,274
為替差益	642	1,647
その他	4,505	3,324
営業外収益合計	7,543	6,248
営業外費用		
支払利息	12,032	10,557
支払手数料	500	—
その他	1,556	1,380
営業外費用合計	14,089	11,937
経常損失(△)	△207,668	△82,090
特別利益		
固定資産売却益	—	28,835
特別利益合計	—	28,835
特別損失		
固定資産除却損	—	478
減損損失	—	7,642
特別損失合計	—	8,121
税金等調整前四半期純損失(△)	△207,668	△61,376
法人税等	5,961	4,740
四半期純損失(△)	△213,630	△66,117
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△213,630	△66,117

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2017年9月1日 至2017年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2018年9月1日 至2018年11月30日)
四半期純損失(△)	△213,630	△66,117
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	1,554	△1,276
その他の包括利益合計	1,554	△1,276
四半期包括利益	△212,075	△67,394
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△212,075	△67,394
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当社は当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、当連結会計年度は課税所得の発生が見込まれないため、当第1四半期連結累計期間については、法人住民税均等割額年間発生見積額の4分の1に相当する金額を税金費用として計上しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2017年9月1日 至 2017年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	カラオケ ルーム 運営事業	CP事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,556,005	44,220	1,600,226	32,514	1,632,740	—	1,632,740
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,556,005	44,220	1,600,226	32,514	1,632,740	—	1,632,740
セグメント利益又は損 失(△)	△55,175	29,120	△26,055	△49	△26,104	△175,017	△201,122

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「音響設備販売事業」、「不動産賃貸事業」等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△175,017千円には、セグメント間取引消去272千円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△175,290千円が含まれております。全社費用は主に親会社本社のグループ管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、従来、「その他」に含めておりました「まんが喫茶(複合カフェ)運営事業」について、管理の効率化を図るために、「カラオケルーム運営事業」に集約しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2018年9月1日 至 2018年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	カラオケ ルーム 運営事業	CP事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,557,543	37,540	1,595,084	20,930	1,616,014	—	1,616,014
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,557,543	37,540	1,595,084	20,930	1,616,014	—	1,616,014
セグメント利益又は損 失(△)	58,912	28,344	87,256	△4,240	83,016	△159,417	△76,401

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「音響設備販売事業」、「不動産賃貸事業」等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△159,417千円には、セグメント間取引消去11千円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△159,428千円が含まれております。全社費用は主に親会社本社のグループ管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「カラオケルーム運営事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては7,642千円であります。